

● 学校運営協議会：熟議による合議制の協議・意思決定機関。情報や課題、目標、ビジョン、成功（活動評価）の共有を年間を通して行います。

● 地域学校協働活動：地域と学校がパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動。学校の目標やビジョンなどを共有し、目標達成に向けた活動を行います。

学校運営協議会では、より良い子どもたちを育てていくための話し合いを行います。子どもたちが抱えている課題を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てるか、また、何を実現すればよいのかなどの目標とビジョンも共有します。

学校と地域の連携と協働による、より良い子どもたちを育成する取り組み「コミュニティ・スクール（学校運営協議会のある学校）」今月号は、町内での実例を交えて「コミュニティ・スクールはどのようなものか」についてお知らせします。

図 社会教育課 ☎43・9026

地域学校協働活動では、学校運営協議会で協議したことを共有することで、地域の中でより良い子どもたちを育てていくための役割が明確になります。学校運営協議会と地域学校協働活動が一体となつて協働的な教育活動を行うことで、コミュニティ・スクールとしての機能がより有効なものとなります。

**加悦地域で動き出す地域との協働**

加悦地域では「加悦小学校・中学校の子どもたちのために何かできないだろうか」と考え、「加悦小・中学校と地域をつなぎ、地域の子どもたちを地域で支えよう、育てよう」をコンセプトに、令和3年2月に「加悦中学校スクールサポート協議会（略称「KSSC」）を設立。すでに加悦小・

中学校と地域の協働が始まっており、これまでの主な活動内容を紹介します。

▼ 講話の講師  
職場体験学習や進路学習での講師依頼を受け、地元の方が「働くことの意義や将来について」の講話を実施。

▼ 環境美化  
「学校を花できれいにしたい」という生徒の思いを受け、プランターに花植えの指導・協力を実施。

▼ 学習補助  
小学校の家庭科の授業で、ミシンを活用する学習の実習補助を実施。実習の際に機器トラブルが起こると、教師がその児童に対応するため、全体の授業を進めていくことが困難になることがあります。助けを求める児童たちに実習補助として寄り添うことで、授業を円滑に進めることができました。

▼ PTA活動の補助  
夏の資源回収に回収車が見つ



からないとの相談があり、軽トラック協力を斡旋（あつせん）。

**地域と学校の連携を大切に**

コミュニティ・スクールは地域の力を生かした教育活動により、子どもの学びが充実します。また、学校を核とした子育て世代と地域の方々の一層のつながりにより、安心安全な地域がつけられるとともに、地域で子どもを育ててもらえるという安心感も生まれます。与謝野町ではこれまでから多くの方々为主体的に学校教育に携わっていただくなど、地域と学校との協働、連携の仕組みが一定築けていますが、より地域の支援を受けながら学校教育を進めていくコミュニティ・スクールを目指します。

次号では、「コミュニティ・スクールの取り組み方とこれからの計画」についてお知らせします。

# 帯状疱疹ってどんな病気？

たいじょうほうしん



## 日本では増加傾向

帯状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスが起こす病気です。水痘・帯状疱疹ウイルスは人に感染すると、水痘（みずぼうそう）にかかった後、体の中に潜伏します。そして、加齢や疲労、ストレス、糖尿病、がんなどの疾患によって免疫力が下がるとウイルスが再活性化し、帯状疱疹を起こすことがあります。80歳までに3人に1人が帯状疱疹を経験するとの推計もあり、高齢化が進む日本では、帯状疱疹を起こす人が年々増加しています。皮膚症状がおさまった後も痛みが継続することがあるため、早期発見・早期治療が非常に重要です。

図 保健課 ☎43-9022

## 帯状疱疹の症状

個人差はありますが、水疱（すいほう）が見られる2～3日前からかゆみやピリピリ・チクチクといった痛みを感じるようになり、初期は皮膚が赤く腫れます。1週間程度たつと水疱の多発や発熱、頭痛などの症状も出現するようになります。通常は2～4週間で水疱が破れ痂（かさ）皮化し、皮膚症状がおさまります。また、皮膚症状が治った後も、長い間（3ヵ月以上）痛みが残る帯状疱疹後神経痛（PHN）になる可能性があります。

## 帯状疱疹の治療

ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬や、痛みを抑える鎮痛薬の使用が一般的で容易になりましたが、より早期の投与が効果的といわれています。かゆみや痛みのおとに水疱が出現するなどしたときは、できるだけ早く受診しましょう。また、50歳以上の方は、ワクチンを接種することで発症や重症化を予防することはできるとされていますが、完全に防ぐものではありません（ワクチン接種は全額自己負担となります）。

## 帯状疱疹のQ&A

- Q1. 帯状疱疹は人にうつりますか？**
- A 周囲の人に「帯状疱疹」としてうつることはありません。しかし、水痘・帯状疱疹ウイルスに対する免疫を保有していない人には感染する可能性があり、その場合は「みずぼうそう」を発症します。
- Q2. 予防接種について詳しく知りたいのですが。**
- A 50歳以上の方は時期を問わず、内科や皮膚科などで接種できます。まずは、かかりつけの医師にご相談ください。

## 成人の9割以上が水痘・帯状疱疹ウイルスの抗体を持っている

すでにほとんどの方が感染していると考えられ、誰もが帯状疱疹を発症する可能性があります。帯状疱疹は、予防することができる病気です。日ごろから免疫力が低下しないよう食事のバランスに気をつけ、適度な運動と十分な睡眠を心がけるなど、できるだけ健康的な生活習慣を保ちましょう。

